

平成28年度加納中学校 学校経営計画

学校の教育目標『自ら学び、豊かな心とたくましく生きる力を持つ生徒の育成』

学校経営ビジョン

チーム加納として、昨年度よりワンランク上をめざす

楽しく規律ある学校生活を通して、生徒一人一人が安心して自分の力を伸ばす学校にするために

【自己評価書】4段階評価：4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校関係者評価書】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
学力向上に努める	学習意欲を高める授業を展開し、基礎・基本の定着と活用する力の向上に努める。	・生徒による学校生活アンケートで、毎日の授業は「わかる」「楽しい」が80%以上である。	・基礎学力の定着を図るための小テストを実施する。・確実にやり遂げる習慣をつけるよう補充学習ややり直しをする時間を設定する。	3	3	アンケートによると、3・4段階が88%と目標を達成しているが、4段階が更に増えるように、教科での研修をしたり生徒へ具体的に意見を聞いたりする必要がありと考える。基礎学力定着のための小テストは各教科で適宜行うことができた。また、長期休業後の補充学習も確実にこなした。今後は、質問に応じる機会を設定する必要がある。	3	・活用力を高める授業は、「教師対生徒」では無理。「生徒間同志」の意見の練り合い等ディベート的な授業を目指すことが重要。「中学生になると発言しない」というのは教師の逃げ。 ・教師の分かり易い楽しい授業の提供と授業を受ける生徒の思いには、アンケートの結果より判断すると少し差異がみられる。生徒の授業にかかわる思いはどこにあるのか、又、生徒の側に立った授業の在り方はどうあるべきか、現状分析をしっかりとやって工夫・改善していく必要があるのではないかと考える。 ・各クラスの授業構想図、学習指導案及び計画について、体系的、画一的にまとめられていて分かり易いとは思いますが、個々に能力の違いのある生徒に当てはめて指導できるか疑問を感じる。指標としての一つの基準とするならば、次の段階に個人の指導案及び計画が必要ではないでしょうか？
	学習規律の徹底を図るとともに、基本的な学習習慣を確立させる。	・生徒による学校生活アンケートで、「2分前着席」「1分前黙想」など学習ルールが守られているが85%以上である。	・年度当初に学習指導集会を開き、生徒に取組の説明を行う。・学習委員会の話合いや呼びかけによる取組を充実させる。毎日、学年で宅習の点検を行う。			年度当初に学習指導集会を開き取組の説明を行い全校生徒の共通理解を図った。また、アンケートによると、3・4段階が88%と目標を達成しているが、4段階が更に増えるような対策をとる必要がある。その方法として、学習委員会を中心に自覚と役割をもたせ、生徒同士で呼びかけや点検を行う。そうすれば、互いに注意し合い、達成感をもたせることができる。これらの対策が必要であると考えます。		・基本的な学習習慣をより細密に、そして具体的にすることが必要。例①1分間に〇〇文字書く。②消しゴムは使わない。③発言者に対しては反応する。など ・生徒と教師のアンケート結果より、17%の意識の差異がみられる。なぜなのか。評価者の立場の違いだけでは看過できないのではないかと。結果をよく分析して、今後の指導改善に生かしていく必要がある。 ・小中学校共通して取り組んでいる時間前の意識付けは非常に大切なことだと共感いたします。日常生活においてもメリハリをつけること、オンとオフの使い分けはストレスをためないための一つの方法であり、気持ちを落ち着かせたり切り替えたりするためにとても大切な習慣だと考えます。先生の評価が厳しい。3割近くの先生は「できていない」と思っているが、何故、生徒の評価と17%も乖離(かいり)しているのか？
	キャリア教育の視点から3か年を見通した進路選択能力の向上に努める。	・1年生で5時間、2年生で8時間、3年生で7時間の体系的な進路学習に取り組む。	・各学年で総合的な学習の時間におけるキャリア教育の部分を話合い見直しを行う。			各学年毎週、キャリア教育の視点で、打ち合わせを欠かさず行ってきた。そして授業実践を行い活動を充実させてきた。ただ、前年度からの内容の踏襲が多かったため、その都度取組を反省し、その上で、新しい企画を立てるなどの見直しが必要であると考える。		・キャリア教育の取組を今後も充実させてください。 ・3ヶ年間で目指すキャリア教育達成点(ねらい)や在り方などが明示されていて、共通実践が図り易く、とても評価できる。教育課程の全分野を通して、たて系、よこ系の関連づけがされていて、指導の意図がよく分かる。 ・全学年においてボランティア活動をはじめとする校外の活動にも積極的に参加し、経験や知識を高めていると思います。今後もキャリア教育の一環として地域活動、部活動を通じた他校の交流、合宿や大会運営、親と一緒に自治会活動等に取り組んでほしいです。
	諸検査の結果分析を行い、有効活用を努める。	・学力検査、意識調査の結果を分析し、個別指導や教育相談に生かす。	・NRTテスト・県国・県数・県英テストの結果分析を行いレジメに整理する。・整理したものを授業や個別指導の中で、活用する。			NRTテストについては全職員で分析を行ったが、県国・県数・県英テストについては、作成中であるので、早急に結果の分析を行う必要がある。また、分析したものを職員に伝達して、授業改善に生かす必要があると考える。みやざき学力テスト・全国学力テストの集計結果については1月5日に伝達を行った。		・2学年のテストから文系・理系との差が全国比である。この視点からの分析も必要であるかもしれない。 ・分析を有効活用するには、分析が大雑把すぎる。各教科A4版1枚、計4～5枚は細かく分析することが必要。今後の指導に活かすことが難しい。 ・指導方法の改善につながる大変重要な結果である。次年度に向け、しっかりと分析して、問題点や課題を洗い出し、改善点や成果につながるよう整理していただきたい。知恵や知力のある「考える力」をもった生徒の育成を期待したい。(単なる博識ではいけない) ・学力レベルは県内でも高いと聞いており、先生方の日々の指導の賜と感謝しております。テスト分析から、課題の抽出はできていると思いますので、分析を通じて生徒一人一人の傾向が表れた段階で、学校と保護者との課題に対する共通認識のもとに対策を考え、指導・改善に取り組んでいただきたいです。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
生徒の自主的・自発的な活動を推進する	生徒が存在感や成就感を実感できる、学級及び学年づくりに努める。	・学校生活に関するアンケートで、「学校は生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばすことに努力している」が85%以上である。	・存在感を感じることができる教師の声かけや雰囲気づくりについての研修の充実。 ・生徒主体の学年集会や学級づくりへの参加を促していく。教師のかかわりについて研修の充実。	4		生徒のアンケートで4と3の合計で目標値を超える結果が出せた。小中連携、校内研修を含む職員の取組が充実した結果と言える。	4	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達の声に、「体育大会」「合唱コンクール」での達成感、効力感をうかがわせる言葉の多いことはうれしいことであり、高く評価できる。一人一人の存在感を認める学級経営、活動がなされている証拠だと思う。 ・先生方の日常の地道な指導努力の積み重ねが大切である。一人二人の百歩ではなく、全職員一丸となった一歩前進の方が価値があると考える。継続は力なりで頑張ってもらいたい。 ・文化祭もしくはそれに代わるものを企画されてはどうか。 ・生徒はほとんどが加納小からの単独での持ち上げりのため、小中連携の取組がやり易いのはと感じています。小中合同研修会における教職員相互の取組以外にも子どもも主体(主役)とする交流研修があってもよいのではと思います。(各種行事への参加等)
	生徒会活動の工夫・改善・充実に努める。	・生徒による学校生活に関するアンケートで、「学校行事の充実」や「各種委員会の活性化」が85%以上である。	・「品格と活気のある加納中」に向けて各種委員会が設定する具体的な取組を支援し見届ける。	4		アンケート結果は、具体的数値目標の85%を超えている。各種委員会で考えた各月の具体策を、代議員会で再度審議してから実施するようにしていることから、より活気ある活動につながっている。今後も、さらに創意工夫された活動がなされるよう、担当教師の働きかけにより学級(全校)各種委員会の話し合いの充実を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人を生かし育てるため、組織の中で出番や存在感をもたせる工夫をし、責任感及び満足感をたっぷり自覚させる教育がなされていることは高く評価できる。生徒達も自信をもって授業や諸活動に取り組んでいると思われる。 ・アンケートからも生徒たちの満足度が伝わってきます。各種委員会活動についても、年間を通じて実行性の高い具体的で充実した内容になっていると思います。来年度は、今年度の取組を評価し踏襲することも重要ですが、何か新しい施策にチャレンジすることにも期待したいです。
	部活動の充実を図る。	・生徒による学校生活に関するアンケートで、「部活動は活発でいきいきと活動しているか」が85%以上である。	・部活動集会やキャプテン会を実施しルールやマナーの徹底を図る。 ・部活動顧問会を開催し、生徒の共通理解を図る。	4		先生方の協力もあり、「部活動は活発でいきいきと活動しているか」の項目で92%と高い数値となった。キャプテンノートを作成するなどし、部活動に対する意識向上に取り組むことができた。部顧問会、キャプテン会を行うことができなかったため、行うことで、部活動がより充実すると考える。		<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会は自主性が発揮され感動が伝わった。スポーツ・文化系を問わず、各種大会に挑戦し優秀な成績を残している意欲的な活動は素晴らしい。 ・文化系の部活動の大幅な拡大が望まれる。体育系の運動場での取組は、罵声が飛ぶこともなく楽しく充実した姿が見られる。野球部が地域の様々な活動に参加している姿は、指導者の意識の高さの現れ。素晴らしい。 ・当初の到達点(目標値)を大幅に超えて、大きな成果を得ていることは評価できる。部活動を通じての人間力(総合力)は、人間の人格形成の大きな土台となり、教育の効果を果たす大きな成果につながると考える。今後なお一層の取組を期待する。 ・部活動の人数の減少に対する休部等への取組はどのようなことをしているのかを周知してほしい。 ・来年度は、部活顧問会、キャプテン会を開催し、更なる充実を図ってください。部活動を通して、生徒も先生も共に成長すると確信しています。
	「無音清掃」の徹底と美しい潤いのある教育環境づくりに努める。	・保護者アンケートで4以上の評価が60%以上である。	・生徒と教員が一緒になって清掃活動に積極的に取り組む。 ・教職員も学校の美化に対して積極的に工夫し教育環境を整える。	4		保護者の結果は期待以上のものが、校舎の新しさや、実際、保護者が校舎内外を見る機会も少ないことが、90%を超える結果になっていると思われる。参観日の保護者の意見の中に、教室が汚いと指摘を受けるケースもあり、日々、環境美化に努める必要がある。年計の中で清掃がカットになる機会もあり、時間をかけて行う大清掃の日程もしっかり計画すべきと考えた。今回の分析で、教員のアンケートの実施もあとより分析に効果があると考えられる。今後、美化委員会の活動で生徒用の取り組みアンケートを実施する予定である。また、小中連携でトイレの美化にも努めたい。		<ul style="list-style-type: none"> ・教室の汚れはクラスの雰囲気も悪くなっていくので、きれいな教室で学習ができるよう、清掃の工夫を話し合わせ、気付かせることも必要だと思う。 ・毎回「きれいだな」と感心してます。これからも続けてください。 ・同じ土俵に立った生徒・教師・保護者向けのアンケートの実施が望まれる。日常の生徒の清掃に対する意識の高揚を図る実践が大事であると考えられる。清掃活動は生徒の心の修練の場にもなっていると思われる。今後の生徒・教師一体となった教育の場としての清掃活動を特段に期待したい。 ・清掃中、校内に言葉もないのではと思われる。「無音清掃」は見事である。トイレがピカピカであることは、生徒の心もピカピカであることの証明。 ・中学校におけるPTAの環境美化活動は、夏休み期間の1回のみである。小学校の奉仕作業(4回)と比較しても少ないため、校内清掃を含めた美化活動の回数を増やすべきと考える。PTA本部や、今年度立ち上げた協力者会に働きかけをするべきである。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		結果の考察・分析及び改善策	評定	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
豊かな心とたくましい体を育む活動を推進する	道徳の時間における指導方法の工夫に努める。	・道徳の時間を100%実施するとともに、道徳的実践力を身に付ける。	・学年単位で授業研修を行う。・学年集会等で適宜、話をする。・心情面に訴える掲示物を作成する。	3		学級担任のアンケートによると、授業は90%以上実施されていたことがわかった。また、資料やワークシートを使った取組もできていた。他にも、各学年フロアに掲示物を適宜作成していった。今後は生徒作品を取り入れると良くなると思われる。集会等時間を設け、その都度講話を行い、生徒に理解と実践を促した。研修は行ったので、今後はそれを生かし、同じ教材での授業を行えば、道徳的実践力が更に高まると考える。	4	・道徳教育の全体計画に基づいて、9割以上の実践が行われていることは高く評価できる。道徳的判断力や実践力は、日常指導の積み重ねの中で育成されていくものであり、一朝一夕にできるものではない。道徳の時間の充実、教育課程全体の結びつきをより充実させて、教育の効果が上がるものとする。 ・躾や道徳教育は、家庭で親が実践するもの。学校での生徒の言動や態度（行動）に気になる変化が見られた場合は、遠慮なく親に対する報告をした方がよいと思う。加納中の生徒は心配ないと思います。
	人権教育の充実を図るとともに、人権感覚の高揚に努める。	・生徒及び保護者による学校評価アンケートの「人権意識」に関する項目が90%以上である。	・「いじめ根絶週間」「人権週間」において、人権意識を高めるための具体的な取組を行う。	4		アンケート結果は、具体的数値目標の90%を超えている。今年度は、生徒会執行部提案のいじめ対策委員会を発足させ、具体的な取組を始めることができた。今後は、「いじめ根絶週間」や「人権週間」を柱として、生徒にコミュニケーションスキルを身に付けさせる取組を計画的に行っていく。	4	・あいさつ運動にて学校に行ったが、生徒達の活動がとてもよかったと思う。 ・生徒会主催の「いじめ対策委員会」は素晴らしい。ここで話し合われた内容が他の生徒にどう敷衍（ふえん）させるかが重要。 ・人権教育の全体構想に基づいて、生徒の主体的な取組が大変充実していることは大変評価できる。アンケートの結果からも生徒の回答評価も高い。このように生徒自身の意識が高いことは大変大切なことであり、日常の教育活動一つ一つの取組の積み上げが教育効果の要因になっていると思われる。 ・生徒会執行部を中心に生徒全員が主体的に「いじめ」をなくす取組を始めたことはとても素晴らしいと思う。大人に相談できない悩みや苦しみを子どもたちが同じ目線で痛みを感じ、いじめと向き合って解決に導いていく。取組の充実を期待します。
	健康な生活に資する体位・体力の向上に努める。	・体力向上プランを実践し、前年度の各種目の平均値を上回る。 ・昼休みに外に出て遊ぶ生徒を増やす。	・体力向上プランによる落ち込み項目を夏休みの課題として実践する。 ・晴れている昼休みは外で遊ぶよう保体委員会で呼びかける。	3	3	体力向上プランを作成し、保健体育の授業を中心に、体力の向上に取り組んでいく。体力テストの落ち込み項目を中心に体力カードを作成し、夏休みに取り組んだ。昼休みに「みんなで遊ぶ日」を保健体育委員会で企画し、運動に対する興味関心の向上につながった。	4	・平成28年度の新体力テストの結果より判断すると、過去3年間の結果と県平均との比較では、男子において「上体起こし」「長座体前屈」において下回っているのが気にかかる。今後、よく分析されて具体的な対策を講じてもらいたい。 ・運動よりも勉強、礼儀正しくおとなしい、といったイメージが加納中ですが、昼休みにはグラウンドに出て活発に運動しているように思います。運動部活動への加入率も9割弱と非常に高く、たくましい子供に育っていると思います。体育教師が2名体制と聞いておりますが、増員は無いのですか？
	命の尊厳や思いやりの心を育てる活動を充実する。	・生徒アンケートの「登下校や学校生活の安全に心がけている」、保護者アンケートの「生徒の安全や事故防止に配慮している」が90%以上である。	・反射たすきの着用を推進し、自己の安全に関する意識を高める。 ・登下校指導及び交通安全指導を充実させる。 ・年2回の避難訓練を通して、防災教育の充実を図る。	3		反射たすきの着用については意識が高いが、忘れる生徒もいた。部活動終了時に着用を促し交通安全に気を付けさせる。避難訓練や防災教育研修を計画通りに実施することができたが、今後、各教科の授業を通して防災に対する生徒の意識を高めていきたい。	4	・反射たすきは、着用していない生徒も見かけるので、部活動帰りは着用の確認をしてみるとよいと思います。交通安全についてになるのかわからないですが、池田台、クリーン池田台間の交差点でお話をしている生徒を見かけるときがあります。 ・黄色点滅信号で一旦停止する生徒は1割。校外、地域に出るとルールが守れない生徒は今も昔も一緒。 ・生徒の生命に関わる安全・安心は最も重要なことである。学校経営の最重要課題は「全生徒、全教職員、全保護者の生命・安全・安心を守ること」である。教師と生徒で、アンケートの結果では、少し差異がみられるが、これは「なぜか」早急な分析をする必要がある。その結果に基づいて、早い段階で生徒に具体的指導を行い、成果を上げていただきたい。 ・新たに設定された自転車走行規制箇所については、一部事故多発ポイントとして加納交番にも注意喚起していたのですが、いち早く生活指導部による改善が図られ、事故防止の最善策として評価しています。近年、各地区における自主防災組織の編成が進み、地域ぐるみで避難訓練が行われています。その様な取組に積極的に参加し、親も子も防災や訓練の大切さを理解してくれればと思います。

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策	評価	学校関係者評価コメント
				指標別	総合			
家庭・地域から信頼される学校づくりの推進する	保護者や地域等への情報発信に努める。	・保護者アンケートで「学級通信、学校便りを読む」が90%以上。	・学級通信を毎週、学年通信や学校便り、保健便りを毎月発行する。・学校便りは地区にも配付する。	3		アンケート結果では75%の保護者が通信を読んでいるのがわかる。学校便りと保健便りは毎月1回、学級通信はほとんどの学級で毎週1回発行し、学校の様子を保護者に知らせている。学校便りは、校長が地区の区長さん宅へ届け、地域の方々にも情報を発信している。今後も情報を発信し、家庭・地域との連携を図っていきたい。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りの情報は、地域の見守りにもつながるので、今後も情報発信は必要だと思う。楽しみに見えています。 ・今後とも地域に情報発信を続けていただきたい。 ・学校便りの中身の濃さ。閲覧板を見て感動しています。親がしっかり読んでくれたら、もっと親も育つのに。PTA新聞は、事業報告ではなく、何かを発信してみたら。 ・学校経営全般にわたり、保護者をはじめ、地域等に実践の取組や成果などを具体的に分かり易く情報公開している。学校便りは、地域でも評価が高い。 ・単なる報告や連絡事項ではなく、トピックスやコラムを交え、紙面の充実を図り、読み物としての価値を高めていると感じます。いつもありがとうございます。学校の様子を知る貴重なツールです。情報発信のツールとして「まちcomiメール」の活用を再考して欲しいです。
	関係諸機関との連携を図り、協力体制の確立に努める。	・地域と一体となって学校づくりを行うため、会合や協議会等に積極的に参加する。 ・かのうinフェスタへ積極的に参加する。	・加納地区まちづくり協議会、青少年育成協議会、民生委員児童委員協議会等と連携を深める。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係機関と連携して、多くの生徒とともにたくさんのボランティア活動や地域の行事等に参加することができた。今後も、さらに関係機関との連携を密にし、協力体制の確立に努めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べて子どもたちの地域交流やボランティア活動参加の意識の高さが伺われる。よい体験をしていると思う。 ・地域の協力者会の再度の立ち上げで、地域での連携を深める活動となっていくと思う。 ・地域の関係機関との連携について大変良い結果が出ていると思います。益々協力体制を整えて欲しい。協力もしていきたいと思います。 ・関係諸機関との連携を密にして、積極的に学校が関わっていることがよく分かる。特に、生徒が地域との連携・協力して、ボランティアや勤労体験活動等に進んで参加していることは高く評価できる。なお一層の取組を期待したい。 ・3年生による「かのうinフェスタ」への参加は、生徒達の独自の発想を広げられる良い機会になったと思う。 ・生徒も先生方もボランティア活動、ご苦労様でした。地域との交流の機会が多い加納中生はとても明るく元気で素直な子どもたちであると日頃から感じています。その第一印象は「あいさつ」です。アンケート結果11項にある「あいさつ」に関する結果として、教師の57%が「できていない」と評価している点に疑問を感じます。生徒の自己評価6%との差が50%以上あるのは何故なのでしょう？
	学校関係者評価を活用し、学校運営の改善に努める。	・学校関係者評価委員の方々が学校に来られる機会を10回以上設定する。	・学校経営計画を見直し、数値目標や手立て等を各分掌部で検討し、自己評価を行う。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・参観日等の案内が遅れることがあり、評価委員の方にご迷惑をおかけした。自己評価については、各校務分掌ごとに時間をかけて行い、本年度の反省から次年度の重点課題の把握に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・かつて学校に関係していた者でも、学校の敷居は高い。特に参観日（保護者向け）にも評価員への案内状は毎回欲しい。 ・学校関係者評価は、登校の機会が限定されるため万全ではないが、第三者の立場で違う視点から評価するため「知見の活用」として大変価値がある。学校関係者評価の意見やコメントを十分に分析していただき、次年度の学校経営改善に生かしていただきたい。 ・避難訓練や小中合同研修会は、見学者の立場で評価委員が参加しても良いのでは？また、あいさつ運動や年間10回程度実施されるボランティア活動についても参加を呼び掛けてみてはいかがでしょう？
	加納小と連携し、9か年を見通した一貫指導に努める。	・合同研究会や研究授業を通して、児童生徒の実態把握に努め、加納中で学びたいと感じさせる児童が100%になるよう目指す。	・小中合同研究会の充実と児童生徒の実態把握に努める。・訪問（校種間交流）授業などの実施。	3		<ul style="list-style-type: none"> ・校種間交流および初任研での関わりを強く持つことができた。出前授業の実践と共通した実践をさらに深めていく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・加納小・中一貫教育に関わる合同研修会や研究授業などの取組は義務教育機関の取組として有意義である。 ・合同研修会への評価委員の参加案内は難しいでしょうか。 ・当地区では、一校一校の小中連携であるため、小中一貫教育の充実が図り易い状況にある。義務教育9ケ年の目指す具体的到達点を明確にして、そこに至る各発達段階別到達に向け、全職員一丸となって共通認識しながら取り組んでもらいたい。小中一貫教育の取組を高く評価できると同時に、今後より一層の成果を期待したい。

本年度の取組について

・年度当初に設定した学校経営全般にわたる目標（達成点）に対して、ほぼ期待どおり、及びそれ以上の実践（取組）と成果が出ていると評価できる。
 ・期待どおりの取組をされていると思います。
 ・評価委員として学校に向向く機会が少なかつた。また、1度の滞在時間が短く、評価項目にあるような具体的取組の様相（様子）を実際に目にする機会も少なかつた。

次年度への改善について

・学校を訪ねた度ごとの評価書の作成
 ・教職員のコンプライアンス問題について一言。教職の仕事は特殊性がある。①人間形成（人格形成）の基本的な価値に携わる仕事である。（全人格で勝負しなければならない。）②実践場面では、生徒に対峙し短時間内的に的確な判断と指導が求められる仕事である。③高度な学問的修練を要する仕事である。以上のことを職員一人一人が常に自覚して仕事に当たるように学校経営者として、繰り返し繰り返し指導していくことが大切であると考える。
 ・「かのうinフェスタ」への3年生の参加に代わるものができればと思います。
 ・特にありませんが、文化祭の代わりに秋の「かのうinフェスタ」には、今年度同様、生徒中心（クラス主体）での参加を期待します。体育大会での昼食提供について、予算の関係上（ブロック5校での決定事項）での廃止はやむ無しですが、昼食がない影響で午後からの参加者が減るので、有料での弁当注文やパン等軽食提供を考えていただければと思います。